

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078400100
法人名	社会福祉法人 多聞福祉会
事業所名	彌栄苑 グループホーム
所在地	福岡県八女郡広川町大字新代1432-1 (電話) 0943-32-5630

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 4月 25日
評価確定日	21年 5月 28日

【情報提供票より】 (平成21年 4月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	9 人
常勤	7人
非常勤	2人
常勤換算	8.02人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(100,000円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年4月10日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	71歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉山内科整形外科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、国道から少し入った小高い場所にある母体施設に併設する建物の2階にある。周囲には住宅や工業団地があり、静かで長閑な風景が広がっている。法人のシンボルマークである「亀」のように、利用者がゆっくりのんびりと穏やかな生活を過ごせるよう、ケアにあたっている。また一人ひとりの利用者の話によく耳を傾け、笑顔で、思いやりの心を持って接することを心がけ、利用者との関係を大切にしている。美味しい食事、温泉気分を味わえる入浴、四季折々の花見やドライブ等の外出等、日々の生活の中での楽しみごとも多く、運営者・全職員のケアに対する熱い思いが感じられる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題について全職員で理念の見直し、利用者全員分の水分摂取量の記録整備を行い積極的に改善に取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員は評価の意義を十分理解しており、管理者を中心として、全職員で話し合っ自己評価を行っている。今回の自己評価の過程においても見えてきた課題があり、それに対する改善も図っていききたいという意欲がある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、利用者の状況や事業計画などを報告している。参加者からも地域の情報などを頂いている。今後は更に意見を引き出し、積極的に事業所の運営等に活かしていく予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会や意見箱を設置し、家族等の来訪時にはなるべく意見等を聴くよう声かけをしている。また、家族からの意見を引き出すために、家族会では家族だけで話ができる機会を増やしていく予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し道路清掃、敬老会に参加したり、事業所便りを地域に回覧し地域との交流に努めている。また近くの保育園からの訪問や近所の方のボランティアも受け入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との触れ合いを大切に、また利用者が安心して暮らせることを願って「地域と共に、笑顔で声かけ、思いやりの心を持ち、家族の一員として接する」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や職員会議時に、職員全員で理念の確認を行っている。利用者には笑顔で声をかけたり利用者の話にゆっくりと耳を傾けたりして信頼関係を築き、家族の一員、我が家と思ってもらうよう日々努力している。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し道路清掃、敬老会に参加したり、事業所便りを地域に回覧する等地域との交流に努めている。また近隣の保育園からの訪問やボランティア希望も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心として、全職員で話し合い自己評価を行っている。前回評価の改善課題については、理念の見直し、利用者全員分の水分摂取量の記録整備を行って、積極的に改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に民生委員、行政、利用者、家族等の参加で運営推進会議を開催している。利用者の状況や事業計画などを報告し、参加者から地域の情報などを頂く等情報交換をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政などに足を運び相談するようにしている。何かあった時でも相談しやすい関係が築かれている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について、全職員で研修等を行っていない。また利用者の成年後見制度等の利用がなかったこともあり、制度に関して利用者・家族等に特に説明していない。	○	制度について研修の機会を持ち、利用者や家族へ情報提供ができるよう全職員の制度への理解を深めてほしい。また制度に関するテキスト・パンフレットなどの整備も行ってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回発行している事業所便りや年3回開催している家族会の中で、利用者の暮らしぶりや状況、職員の異動等について報告している。また緊急時には家族に電話で状況報告を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や意見箱を設置している。家族等の来訪時になるべく意見等を聴くよう声かけをしたり、家族会において家族だけで話ができる機会を作る等意見、不満、苦情を聴取するよう努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は普段から職員の話をよく聞き、困ったことや相談などを気軽に話せる関係性に努めている。また勤務時間や休日に配慮し勤務体制を組み、異動や離職を抑える努力をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別、年齢等で制限するようなことはしない。それぞれの職員が能力を發揮でき、また働きながらも資格取得ができやすい職場環境に努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修に参加していない。またテキスト、パンフレット等が未整備である。	○	人権に関する研修参加の機会を設けて、職員の人権教育、啓発活動に取り組んでほしい。また研修記録を残し、テキスト、パンフレット等は職員がいつでも確認できるように整備してほしい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議の中で勉強会を行い、外部研修にも参加している。管理者は職員育成への意識が高く、今後は法人内での合同研修も検討している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員は近隣の同業者と交流を行い、情報交換を行っている。勉強会や訪問等を通じてサービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には見学等の受入れや本人・家族と面談を行い、情報を収集して本人が安心してサービスが受けられるよう配慮している。やむを得ず、即利用になった場合や不穩が続いた場合でも、家族等と相談しながら利用者に寄り添いながら少しずつ慣れていくよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の昔話を聞いたり一緒に過ごすことから、生活の知恵や人生観について学ぶことが多々ある。互いに支え合う関係が築かれている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の話をよく聞き、一人ひとりの思いや希望を利用者の言葉の端々から確認している。また言葉にしづらい利用者の思いなどは、表情や行動から汲み取り、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や希望を取り入れ、本人をよく知る担当者を中心に全職員で意見交換をし、それぞれの意見やアイデアを反映させた本人本位の介護計画を作成している。また本人・家族が了承した署名・捺印がある。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化や状況に応じて、家族等と意見交換をして介護計画を見直している。また毎月モニタリングを行い、記録を残している。介護計画の中には、長期目標が1年、短期目標が6ヶ月で立てられているものがあり見直しがないところが一部見られた。	○	全ての利用者に対して介護計画は6ヶ月に1度見直してほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対して、本人、家族の状況に応じ、通院や送迎等の支援を柔軟に行っている。利用者の入院の際には、家族や医療関係者と連携を図り、早期退院に向けた支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関への受診や往診が受けられる支援をしている。家族の事情等によって受診や付き添い等柔軟に対応している。また受診時の結果に関しては、家族及び職員間でもきちんと共有し合っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向を尊重し、かかりつけ医等と話し合いながら全員で方針を共有し看取りを行った。今後は、事業所が対応し得る支援の方法を踏まえて、重度化した場合や終末期のあり方について、方針を文書化する予定である。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。また全職員は利用者のプライバシー確保や個人情報保護の努め、秘密保持の徹底を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮しながら、買い物や散歩等、その日その時の本人の気持ちを大切に、希望に沿った支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の好みや旬の食材や新鮮なものを取り入れ、利用者の食欲をそるよう創意工夫している。職員は同じテーブルで、利用者の食事介助や見守りを行ったり一緒に食事をしながら、楽しく食事ができる雰囲気作りを心がけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の体調や希望等にあわせて柔軟に対応している。また併設しているデイサービスには純金風呂、檜風呂、光明石温泉風呂があり、希望に応じてそちらでの入浴が可能である。長閑な景色を見渡しながら温泉気分を満喫することができる。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の読書や家庭菜園など今までの趣味が継続できるようにし、食事の下準備、タオルたたみ、居室の掃除、花壇の花植えなど利用者の能力に合わせて、役割や楽しみごとを支援している。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候や利用者の体調に応じて散歩を支援している。また車椅子の利用者でも外出できるように母体施設のリフト車を利用して、ドライブ、外食、季節の花見等に利用者全員で出かけている。季節を肌で感じてもらったり、心身の活性につながるよう日常的に戸外に出かけるように支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>2階に事業所があり、利用者は隣の別施設の廊下通路を使用しリフト・エレベーターで出入りしている。構造上1階玄関は使用しづらいため施錠している。家族へは説明を行い同意を得ている。外出傾向のある利用者に対しては、見守りや声かけを行い対応している。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時のマニュアルを作成しており、年3回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。また年1回は母体法人施設と合同で、消火訓練も行っている。地域住民へ参加を呼びかけている。非常用食料、飲料水、備品も準備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取状況を毎日チェックし、個別に記録している。利用者の嗜好を把握し、献立に取り入れながら栄養バランスにも配慮している。医師、栄養士から専門的アドバイス、チェックを受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間には端午の節句の兜や壁に利用者と職員の合作の折り紙で作った桜の作品を飾られ、季節感あふれる家庭的雰囲気が漂っている。また車椅子でも移動しやすいよう配慮し、居間には利用者がゆっくりとくつろげるようソファも配置している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、これまで使い慣れた目覚まし時計や鏡等利用者の馴染みの物等の持ち込まれている。また、家族の写真が飾られ、利用者が安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		

※ は、重点項目。